

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	模擬患者 (Simulated Patient: SP) 参加型シミュレーション教育の学修効果および方略の検討				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科・准教授	氏名	長谷 由紀子
	研究分担者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科・教授	氏名	仲井 雪絵
		所属・職名	日本医学教育学会 学会国際化委員会・委員	氏名	吉田 登志子
		所属・職名	岡山 SP 研究会・代表	氏名	前田 純子
		所属・職名	岡山 SP 研究会・会員	氏名	末藤 佳江
	発表者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科・准教授	氏名	長谷 由紀子

講演題目
模擬患者 (Simulated Patient: SP) 参加型シミュレーション教育の学修効果および方略の検討
研究の目的、成果及び今後の展望
<p>【背景と目的】患者-医療者間、医療チーム内の人間関係を基盤とする医療において、コミュニケーション能力の向上は不可欠である。本研究では、その教育方法として、模擬患者 (Simulated Patient: SP) 参加型シミュレーション教育を歯科衛生学生に対して導入し、その学修による学生の認識変化を分析、効果的な学修方略について検討した。</p> <p>【方法と結果】2023 年度歯科衛生学科 2 年生 38 名を対象に、連続した 3 限 (90 分×3) で講義と演習を組み合わせた SP 参加型シミュレーション教育を実施した。具体的には、医療コミュニケーションの技法や初診時の医療面接における質問項目に関する講義と、その後 SP とあるいは学生同士で初診時の医療面接のロールプレイと振り返りセッションで構成される演習を実施した。演習は 6~7 人のグループで 6 回 (SP とのロールプレイを内 2 回) 行い、学生は、歯科衛生士役、患者役、観察者役の役割を各 1 回以上担うこととした。講義および振り返りセッション終了後に学生が記載した振り返り記録の記載内容を、本授業からの学生の認識変化の視点から質的に分析した。学生は講義では、初診時の医療面接のポイントや質問の流れを学び、患者から情報を収集することを意識していた。歯科衛生士役のロールプレイでは、講義で視聴したお手本の医療面接の動画の通りに情報を収集しようと質問囚われ、患者が出すサインや伝えたいことを見逃し、詳細な情報の取得や患者との良好な関係の構築が困難な事例が多かった。ロールプレイ後のフィードバック、患者役や観察者役からの気づきによって、コミュニケーションの技法の有効性や、表情やあいづちなどの非言語コミュニケーションが患者に安心感や信頼感を与えたことを学んだ。また、面接の中で患者の言葉や感情を受け止め、ひとつずつ深めて掘り下げて行く“対話”の重要性に気付いた。ロールプレイでは無意識に普段の自分の言葉や態度が出現し、自らのコミュニケーションスタイルを認識する機会となっていた。さらに、コミュニケーションを通して患者へ誠実さや気遣い、そして真剣さが伝わることを学び、医療面接の場でコミュニケーション技法を活用し、共感や傾聴を表現する必要性を学んでいた。</p> <p>【今後の展望】学生同士のロールプレイや他者のロールプレイの観察によって、医療コミュニケーションに関する気づきや学びを得ることはできる。しかし、リアリティのある SP とのロールプレイと SP から直接のフィードバックによる振り返りからの気づきによる学修効果はさらに高い。今回は人的・時間的資源の制限により、学生全員が SP とのロールプレイを実施できなかった。今後は全学生に学習効果が高い SP とのロールプレイを、可能であれば複数回 (臨床実習前・臨床実習後) 実施し、学生自身がコミュニケーション能力の向上を確認・自覚できる学習環境を整備していきたい。</p>